令和2年度

事業報告

社会福祉法人　容風会

おきなの杜

特別養護老人ホーム おきなの杜

2020スローガン

自立支援介護を理解・実践し、「いい介護」を目指します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	自立支援介護を理解し、実践します。	①自立支援介護については、コロナ禍の中、外部研修ができなくなったため、各自で学習を行いましたが、「特養全体でどのように取り組むか」までは至らず、停滞しています。 ②ユニット会議では、今年度の目標についての振り返りを毎月行いました。自立支援介護については、水分摂取や排泄介助について、今できることを少しずつ多職種と協議して取り組んでいます。水分摂取を促して、排便コントロールが上手くいった事例などわずかですが、成果が出ています。
目標2	ノーリフティングケアや認知症ケア等を学び、介護技術のワンステップアップを目指します。	①実技研修が行えなかったので、委員会を中心に実技動画を作成し自己学習できるようにしました。下半期には、実技練習を再開し、技術が少しずつ向上しています。福祉用具も上手に活用できていて、住民様やスタッフの負担も軽減でき、褥瘡の発生や骨折、転倒、皮下出血など事故防止に繋がっています。 ②ユマニチュードについては、担当者を決めて定期的に学習会を行いました。
目標3	チームワーク向上とキャリアアップを目指します。	①外部への研修等は、新型コロナウイルス感染症の影響で参加できませんでしたが、オンライン研修などに参加してスキルアップに取り組みました。 ②下半期は、特養全体で「秋祭り」の企画を行い、各ユニットから担当者を決めて企画から運営まで行い、楽しい行事を住民様に提供しました。

年間総括

令和2年度の稼働率は96.9%（前年度：97.7%）でした。入院者は30名（前年度：35名）、入院日数：536日（前年度：412日）でした。入院理由として多かったのは、肺炎10名、尿路感染7名、脳梗塞3名で、長期入院になった方が多く、入院日数が前年度より多くなりました。また、退去者は18名（看取り7名）で入退去が多い年でもありました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため、家族の面会禁止や外出の自粛・行事の中止などで、住民様・スタッフとも我慢の年でした。家族や外部からの来訪がない分、スタッフの油断などで薬の事故（誤薬、与薬漏れ）が例年よりも多く発生してしまいました。服薬マニュアルを見直し、再発防止に努めました。いろいろな我慢を強いられた中で、少しでも住民様に楽しんでもらおうと、感染対策をしながら「秋祭り」やユニット行事に取り組みました。住民様の写真を載せた年賀状をご家族様に送り、元気な様子をお知らせしてご家族様に大変喜ばれました。たくさんの制約がある中、スタッフ全員で感染症対策に取り組み、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスへの感染をゼロに抑えたことは、スタッフの努力のおかげです。来年も引き続き取り組んでいきます。

ショートステイ おきなの杜別館

2020スローガン

ご利用者様が心から満足して頂ける、おもてなしの金メダルを目指します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**満足・笑顔を提供します。**	①コロナ禍で外出レク行事が出来ませんでしたが、室内でも取り組めるレク（季節を感じる）手芸、工作等には取り組む事ができました。 ②ご利用者様、ご家族様のニーズについては、一人ひとりに合わせて少しでも寄り添いながら、少しでも満足して頂けるように笑顔で対応し、他の施設では見れない利用者様も対応する事が出来ました。 ③排泄の対応や福祉用具の提案を行い在宅でも介護ができるようにご家族様へ助言を行う事が出来ました。
目標2	**介護のプロとして”最高の介護”を”笑顔”で提供します。**	①②③ ご利用者様の為に常に笑顔で、ご家族様、ケアマネジャー、各事業所とも連携を図る事に努め、ワンチームとしてお互いに協力しお互い様の気持ちで対応ができました。以前よりもスタッフ間の結束力が強くなってきました。
目標3	**稼働率95％以上を目指します。**	①②③ コロナ禍もあり、春は稼働率がかなり下がりました。その後は直ぐに95％前後まで回復しましたが、1月から入院やご逝去、特養へ入居される方が重なり80％台となり、月平均が91％になりました。ただし、新規の受け入れについては、以前より多くなっている状態です。 ショートの利用者様からコロナも出る事もなく元気に過ごされました。

年間総括

今年度はコロナ禍にてレク等が予定通りに取り組む事が出来ませんでしたが、おきなの杜別館で出来る事は何かを模索し、少しでも季節を感じることができる手芸、工作等に取り組む事ができご利用者様からも好評でした。また、今年度は、転倒リスクが高い方、室内を徘徊される方、他の施設等でお断りされた方、手（暴力）を出してしまう方、トイレ誘導してもトイレで排泄をされない方等、本当に大変な方の受け入れも行う事が出来たのもスタッフ間の連携、ご家族様、ケアマネジャー、デイサービス等の連携ができたからこそ、対応が出来たのかなと思われます。スタッフの中には、ご利用者様に殴られ、ひっかき傷を負いながらも笑顔で対応していました。本当にご利用者様のために、ご家族様のためにを考えた結果だと思います。
稼働率につきましては、春に緊急事態宣言がでて稼働率が70％台まで落ち込みましたが、解除後には直ぐに95％前後に回復しました。
1月以降は入院者、ご逝去の方、特養へ入居の方と続き80％台まで落ち込みましたが、新規獲得に向けて次年度は取り組みます。

おきなの杜デイサービス　いきがい元気塾

2020スローガン

一人(スタッフ)はみんなの為に。みんなは一人(利用者)の為に。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	スキルアップ＆チーム力アップ	①感染予防対策の為、外部の研修参加を控え、代わりにzoomやベルフェイスなどを利用して新しいカタチでの研修やリモート説明を経験しました。 ②月初にホテルマンウィークを設定して、接遇や利用者対応について各自で振り返り、向上に努めました。 ③常に業務改善と効率化の意識を持ち、必要な事と不要な事を見極めることを繰り返し行うよう心掛けました。ICTについても積極的にリサーチやお試しを行いました。
目標2	自立支援を応援します。	①一日のスケジュールの中で利用者が「アナウンスを行う」機会を設けました。利用者主体でメッセージの発信を行ったり注意喚起をすることで、『マスクをしましょう』などのメッセージが円滑に伝わる効果がありました。 ②囲碁やビリヤードなど男性利用者同士の交流は深まりましたが、新しい活動の提供には至りませんでした。 ③興味関心シートの活用には至りませんでしたが、過去の職歴や趣味などの情報から利用者を理解してアプローチを試みました。一部の利用者を担当して自立支援について検討する経験も行いました。
目標3	新しい元気塾の開発に挑戦します。	①入浴拒否のある方への対応について情報を集め、効果のある対応・ダメな対応をスタッフ間で共有しました。業務改善も進め、『まずは変えてみて』→『課題を修正していく』というスタイルが定着しました。 ②③月刊デイへの発表や、家族会の実施は出来ませんでした。10月には、ウェル戸畑で行われた地域の活動報告会に元気塾でのコロナ禍の活動を報告する機会があり、発信できました。

年間総括

新型コロナウイルスの流行は終息しないまま一年が経ち、利用者・スタッフにとって初めて経験する気の抜けない状況の連続でした。
4月に始めたエブリデイオーベーション(医療従事者の方への感謝の拍手)は現在も毎日欠かさず行い、続けています。
認知症や重介護の方の利用が多い元気塾として、ご利用者、ご家族の生活を守るために『通常通りデイを利用できること』が大きな課題となります。
今年度の平均介護度は2.0　平均稼働率は82.3%で、緊急事態宣言発令中も稼働率はさほど低下せず、利用ニーズの高さを感じました。
今年の元気塾の取り組みとして、『ホテルマンウィーク』としてスタッフの振る舞いをホテルマンのイメージで行う期間を設けました。この取り組みを通して、スタッフが自然に自分の行動を振り返り、言葉かけや声のトーンを改善することに繋がりました。また、ユマニチュードを改めて理解し、認知症の方に対する対応力が向上したと感じています。また、下期にはユマニチュード・ノーリフト・次世代対応の3チームに分けて元気塾の取り組みの推進と発信を行いました。令和3年度も報酬改定という荒波にもまれつつ、進化し続ける元気塾に期待を寄せて頂きたいと思います。

おきなの杜デイサービス　やりがい文化村

2020スローガン

Challenge The Top！～スタッフ･ご利用者様 共に挑戦します～

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組･成果･実績
目標1	**『趣味活動』を応援！ より多くの選択肢のある環境作りを行います。**	①コロナ禍で今までしていた活動ができなくなり、最初は戸惑いもあったもののスタッフ一人ひとりが新たな発案を行い、室内でも楽しめる活動を定期的に開催しました。 ②今まで食後にスタッフにて配膳していた珈琲提供を「いつでも、好きな時に」とキッチンワゴンを設置し文化村喫茶として取り組んだ結果、利用者が自ら好きな飲み物を好きな時間に飲まれるようになりました。 ③毎月担当者が制作やゲームなどで全員参加の1日を作り、事前準備も大変ですが達成感がありました。
目標2	**『楽しく運動』を応援！ 文化村ならではの、機能訓練を提案し、オリンピックを文化村でも行います。**	①2．3年前よりリハビリデイと題し活動の時間帯を使って全員参加で機能訓練を実施してきました。評価項目も充実させ、日頃の運動の成果を発揮する場となりました。 ②東京オリンピックは延長となりましたが、文化村で2ヶ月に1度オリンピックデイを開催。ゲーム感覚で運動を開催し、スタッフのコスチュームなどの環境作りも本気を出し楽しい活動の1つとなりました。 ③機能訓練指導員と自宅メニューを共有し運動の習慣化を一緒に取り組むことができています。
目標3	**『地域との繋がり』を応援！ 文化村独自のSNSを開設し、情報発信を強化します。**	①ブログの更新も月に1度ぐらいのペースでした。来年度は独自のSNSを作り発信する力を強化していきたいと思っています。 ②コロナ禍で地域参加を断念せざるを得ない1年でしたが、来年度はそれを理由とせずに積極的に地域の方々との交流を図る機会を見つけ参加していきます。今年度は手作りマスクの社内販売を実施致しました。 ③地域との繋がりは毎年の課題です。情報を取りに行く姿勢からまずはスタートしていきます！

年間総括

今年度はコロナ、コロナの1年で1年経った中でも未だに収束の兆しが見えません。カラオケや外出訓練、おやつやご飯作りなど、今まで当たり前にしてきた活動に制限がかかり、室内で感染予防に留意した取り組みが前提となった活動へ変更を余儀なくされています。その中で、新しい生活様式に沿った活動や運動、そして日々過ごしていくことに利用者も職員も考え方を変えることができてきました。慣れたものを変えるのは大変なことです。
来年度は、今までの当たり前を大きく変える転換期となりそうです。介護報酬改定によって、「介護」にエビデンスを求められるようになりました。
科学的介護という言葉を耳にするととても難しいように感じますが、これからは介護にもエビデンスを持って提供していかなければならないと痛感しています。介護、看護、リハ、相談員と多職種間での情報共有を濃密にし、多角的に個人をみていけるよう来年度、乗り遅れないようにまずはスタッフで定期的な勉強会を開催し、同じ方向に向かえるようスタートを切っていきます。苦手なことにも積極的に挑戦し、『データ介護』に取り組みつつも、文化村での「らしさ」を大切に選ばれるサービスを提供し続けていきたいと思います。

おきなの杜デイサービス　OKINA de ARUKU

2020スローガン

”2020　オリンピックイヤー”ARUKUは高齢者のアスリートを育てます！

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	高齢者界のアスリートを目指します。	①全体での体力測定大会は実施できませんでしたが、評価月のPiT測定による個別での体力測定は例年通り実施しました。また、個別で毎月、下肢筋力測定を行う方もおり、筋力向上を目指した方もいます。 ②自主トレメニューをお渡ししている方、ARUKU利用中自主トレを行う方もおり、成果が出ている方もいます。 ③食事量が少ない方や痩せ気味の方に対し、栄養サポート食品の提供や筋力アップに効果的な食事についてのアドバイスを行いました。
目標2	アスリートの精神をもって運動に取り組んで頂きます。	①個人的に目標を聞きとり、その目標達成に向けて運動の指導を行いました。具体的な目標を決めることで、必要な運動が理解しやすく、成果につながった方もいます。 ②できなかったことができる様になった時には、ともに喜び、努力を認める声掛けを行います。まずは達成しやすい目標を提供することで達成感を積み、自信に繋げることができた方もいます。 ③全員とはいきませんが、声掛けを繰り返し行うことで自宅での運動習慣が身についた方もいます。
目標3	1日平均35人を目指します。	①「運動メニューについて」「スタッフの対応について」「送迎について」の内容でアンケートを実施し、利用者様の声を聴く機会をつくっています。運動メニューでの声を拾い上肢のトレーニング機器を取り入れる予定です。 ②コロナの影響でお休みされる方の多い年となってしまい、目標は達成できませんでした。 ③参観日は開催できませんでしたが、電話でのコミュニケーションは変わらず行っています。

年間総括

コロナの影響で、当初予定していた通りの1年とはいきませんた。外出自粛の世の中で、休まれる方が多く、稼働率は一時期20％以下まで落ち込みました。しかし、外出の機会が減少し活動性が低下することで身体機能が低下し、転倒される方、入院される方も増え、運動の必要性を実感した年でもあります。休みが続いている方に対しては、運動メニューの送付、定期的な体調確認、訪問による運動指導を開始し、身体機能の維持に努めました。今では、ほとんどの方がデイの利用再開となり、稼働率も65％にまで回復してきています。R2年度の目標としては、身体面と精神面でのアスリートを！ということで、新たに運動と栄養に着目し、栄養補助食品の提供と食事のアドバイスを行い、筋力向上に向けてのアプローチを行いました。精神面では達成感に着目し、「出来た」の積み重ねが出来るように具体的な目標設定を行い、徐々に身体機能が向上するよう支援しました。その結果、「階段が杖なしで歩けるようになった。」との成果も現れています。3月には目標を達成し卒業された方もいます。休まず運動に参加していただくことで得られる成果をしっかりと伝え、目標達成、卒業へと導き、利用者様の「その人らしく生きる」ための支援をしていきたいと思います。

訪問介護ケアメイドインおきなの杜

2020スローガン

自分らしく生活できるよう全力で応援します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**利用者の意欲を引き出し、やる気の出る環境つくりを目指します。**	日常生活において、困っている事にちょっとした工夫を提案し改善する事が出来ました。転倒を繰り返している方や意欲低下のある方の生活状況を再確認し、必要な支援を見極めたうえで活動できています。 利用者にも役割を持っていただき、無理なく出来る家事に参加できるような環境創りに努めました。
目標2	**多職種との連携を深め、利用者の自立支援を目指します。**	訪問時、利用者を観察する事によって、自宅での様子をデイサービスやショートステイに伝え、本人の不安を軽減する事が出来ました。連携を深めることでつながりのあるサービスが出来ています。 些細な変化にも気付けるようヘルパー間でも密に連携を取り、専門職のアドバイスをもらいながら支援が出来ています。
目標3	**日常業務の効率化のため情報収集を行います。**	毎日の指示・報告で利用者の細かい情報を把握し、チーム内で共有する事により効率よく業務が出来ています。情報を共有する事で、統一したサービス提供をおこなうことが出来ました。

年間総括

コロナ禍での自粛生活が続き、意欲の維持が難しい1年でしたが、住み慣れた自宅での生活スタイルを可能な限り変えないように全力で支援して来ました。外出する機会が減り、体力・気力が低下する中、少しでも不安が軽減するよう多職種とも連携を取りながら、サービスを検討し生活環境の改善に取り組みました。自立支援を目標に利用者の出来る力を引き出し、生活意欲が向上するよう専門職のアドバイスを受けながら、スタッフ間で統一したサービスを提供する事が出来ました。常勤が1名増えましたが、登録ヘルパーの退職や高齢化が進んでいる現状があり、依頼はあっても対応できない事案もあり、新たな人材確保に努めています。利用者の生活の場である自宅で、安心して過ごせるよう今後も自立支援を目標にサービスの向上を目指して行きます。

介護相談処（居宅介護支援事業）　地域介護支援センターおきなの杜

2020スローガン

利用者・家族の『伴走者』となって、頑張るすべての人を応援します！

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	利用者・家族の伴走者となります。	常に利用者や家族の立場になって少しでも心身に寄り添い傾聴を行っています。 令和2年度は、新型コロナウィルス感染症が蔓延し不安の一年となりました。 利用者や家族の不安を軽減できるよう努め、専門職の立場から助言を行い、利用者、家族と一緒に問題解決に取り組みました。できる限り訪問や情報収集により、寄り添った支援ができる様心掛けました。 私たち介護支援専門員が何ができるかを常に考え、利用者・家族の伴走者になって走り続けます。
目標2	自立支援のケアプランを作成します。	利用者にとって何が自立支援となるのか、よく考え十分なアセスメントを行い、ケアプランを作成しています。 利用者が地域社会で担っている役割ができる限り継続できるよう留意しながら、ケアプランを作成しています。 自宅でも家事活動や自分がしたい事、趣味活動が取り組めるように関係機関との情報収集、連携、協働を図りながら、ケアプランを作成しています。
目標3	地域に貢献します。	本来であれば、もっと積極的に地域の行事や活動に参加したいところですが、新型コロナウィルス感染症が収束するまでは残念ながら、そこは我慢せざるを得ません。今、地域で何が不足し、何が必要とされているのかを考える機会かと思います。一人一人のお客様に真摯に向かい合い、課題を解決していく事が今できる私達の最大の地域貢献と考え実行しています。

年間総括

新型コロナウィルス感染症に振り回され、じっと我慢の1年間でした。利用者訪問や担当者会議の開催など、十分な注意を払い、訪問、開催できない時は電話やメール、ファックスなどを活用しながら支援を行いました。おきなの杜の中でも利用者様にも一人の感染者もなく支援ができたことに感謝します。
2021年度は介護報酬改定の波にもまれ、先が不透明なままスタートしています。
新たな時代に求められる介護保険の在り方、ケアマネジャーのスキル、立ち位置を考えながら、前に向かって進んでいきたいと思います。
今回の改正にあるICT化を進め、リモートワークなどができるようになり、業務の効率化や職場環境が改善されることで収益率もあがり、人材確保へも繋がると思います。

経営管理本部　事務局

2020スローガン

おきなの杜に関わる全ての人のサポーターを目指します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	各部署の縁の下の力持ちとして臨機応変に対応していきます。	①今年度は特に新型コロナウイルス感染予防に対して各部署が取り組む対策へのサポートを実行しました。ご家族様への関連文書の作成や発信、ビデオ面会を実施するためのLINE通話の仕組み導入、環境面では換気や飛沫防止対策、感染対策備品（マスクや消毒液等）の調達・備蓄に奔走しました。 ②各部署の取り組みをホームページやブログを通じて広く発信しました。このことは、コロナ禍で施設を訪問できない利用者家族や新規利用者獲得、職員採用の面でとても有効であったと実感しています。
目標2	働きやすい職場環境作りを全力でサポートします。	①ここ数年で離職の低減化が図れていると実感しています。日常的に職員同士のコミュニケーションが円滑に行われ、お互いに高め合える関係性が築けていると感じられます。また、年5日の年次有給休暇の取得義務化および独自に設けているリフレッシュ休暇についても対象者全員が取得できています。 ②職員はこの一年間、高齢者施設で勤務することの責任からプライベート面でも緊張感を持って自己管理にに臨み、2月より毎月実施しているPCR検査も全員が受検しこれまで全員が陰性という結果です。
目標3	ICTを活用し、スピーディかつ正確な情報共有を行える環境を作ります。	①グループウエアの活用により、日々の情報の伝達・共有に飛躍的な効果が見られました。全職員に配信されるため「知らない・聞いていない」などの言い訳ができなくなり、口頭やメモでの伝言＝アナログからデジタルに移行することができ、ペーパレスも実現できています。 ②業務効率化を図り、各部屋にコピー機を設置、電話回線も増台しました。またYouTubeやZoomなどによるオンライン研修を積極的に取り込み、投影モニターやWi－FiなどIT環境の整備にも取り組みました。

年間総括

2020年は新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。4～6月は手探りながらも錯綜する情報を手探りで得ながら感染対策に取り組み、一旦夏場に落ち着いたものの秋からは冬場に向けた対策を取りながら一年が終わったという感じでした。スタッフも利用者様も国や行政、法人からの感染予防に関する行動規制や自粛のお願いを遵守してくださり、感染者を一名も出すことなく今を迎えていることには感謝しかありません。
経営面においては、感染を恐れた利用控えから収入も落ち込みましたが、助成金などを活用し、なんとか黒字化することができました。
また15周年を迎えた今年、大型改修工事計画の最後となる外壁補修塗装工事を無事に終えることができました。建物も美しく生まれ変わったことから、さらには敷地内および館内の美化にも取り組んでいます。
2021年は制度改正の年となり、社会福祉法人にも大改革が求められてきます。ICT化・デジタル化、人財育成、災害対策BCP策定および訓練等に取り組み、法人理念の追求を目指した事業計画の達成と安定した経営基盤を目指します。

身体拘束･虐待防止委員会

2020スローガン

人権、尊厳を尊重し、安心･快適に過ごせる時間を提供します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組･成果･実績
目標1	**身体拘束、虐待0を継続します。**	①身体拘束の指針について整備し、確認を行いました。更新や変更はありませんでした。 ②③認知症利用者のケアに対する学習会は、委員会として開催する事が出来ませんでした。 認知症の症状のある利用者様･住民様への対応としては現場スタッフが行動を分析し、対応を試みる事で、身体拘束･虐待を行う事無く過ごして頂く事が出来ています。
目標2	**相手を知り、相手に寄り添います。**	①②③特に新入居の方に対しては特養の生活になじんでいただくまでの間、相手を知り、相手に寄り添う対応を行いました。その方の過ごしてこられた生活習慣や行動の情報を収集しながら、安全に過ごして頂くための対応･対策を試しては修正する事を繰り返しました。ご家族との連携や、ユニットでの話し合いも十分行いました。
目標3	**身体拘束･虐待に関する知識を全スタッフで共有します。**	①②③新型コロナウイルスの感染予防対策として、動画視聴による学習会を試みました。動画視聴のコメントはクロッシオンを利用しました。意外にも従来の学習会に比べて、積極的な意見や感想を得ることができました。身体拘束のグレーゾーンと言われるケアについて委員会で話し合う機会を持ち、スタッフへ方向性を示す事も出来ました。また、虐待に繋がりうる不適切ケアを防止するための課題の発信もありました。

年間総括

今年度は新型コロナウイルスの流行があり、従来の全体学習会は行えなかったため、ICTを活用した新しいカタチでの学習会の開催を試みました。
予想以上に各スタッフが身体拘束や虐待防止について考え、内容の濃いレポートが集まりました。
悩みや疑問を抱えながら日々のケアを行っていることも分かりました。現在おきなの杜での身体拘束･虐待はありません。これは認知症や対応困難な方に対して現場スタッフが対応を工夫し、トライ&エラーを繰り返しながら利用者様･住民様第一のケアを目指している結果だと考えます。
一方で、課題として身体拘束のグレーゾーンと言われるケアについて話し合ったり、介護を行うスタッフの過度のストレスや疲労に対する対策も必要であると感じました。身体拘束についてオープンに話し合える委員会、虐待を防止するために住民様だけでなくスタッフにもよりそう委員会でありたいと考えます。

感染症・食中毒予防対策委員会

2020スローガン

施設内の感染症（食中毒を含む）の予防や発生時の感染拡大を防止します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**衛生管理の学習会を実施し、施設内の衛生管理、保持に努めていきます。**	①新型コロナウイルス感染症の予防対策として、マスクの着用、手指消毒の徹底、個人用の消毒液の携帯、職員の体調チェツクの記入など感染対策に努めました。 食事介助・痰吸引、口腔ケア、排泄介助でのゴーグルやフェイスシールド、エプロンの着用なども徹底しました。
目標2	**衛生管理の基本である手洗いやノロウイルスによる吐物処理などの実技研修を定期的に行います。**	①ノロウイルス嘔吐物処理については、実技研修を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、実技は実施せず、手順の動画を作り替え、それを見ながら手順の確認を行う学習会を計5回実施し、職員全員が参加しました。
目標3	**最新の感染症の情報を把握し、予防や早期発見・感染拡大防止に努めていきます。**	①その他の感染症学習会として、「食中毒予防」「衛生的な手洗い方法」については、資料配布で学習し、新型コロナウイルス感染症予防対策としては、「個人防護具PPE」の付け方、外し方について動画と実技で学習しました。

年間総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策で追われた1年でした。最初はどのように感染予防を行ったらよいか迷うことも多く、対応策も頻繁に変わるような状況でしたが、職員全員で公私に渡り感染予防に努めた結果、新型コロナウイルス、インフルエンザウイルスなど感染症の発症をゼロに抑えることができました。これは、職員一人ひとりの頑張りによるもので大きな成果を上げることができました。
新型コロナウイルス感染症　陽性者/濃厚接触者発生時対応マニュアル（特養、入居者バージョン）を作成しました。感染者が出てクラスターが発生した場合、ゾーニング方法、必要物品、レッドゾーンでの対応などを具体的に決めました。それについての学習会も行いました。
令和3年度も引き続き感染予防対策を行い、ひとりの感染者を出さないように取り組んでいきます。

褥瘡予防対策委員会

2020スローガン

全スタッフ、褥瘡のメカニズムを理解し、褥瘡ゼロを目指します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**褥瘡のリスクに高い方を定期的に把握し、個々に応じた対策を考えて実践します。**	①ブレーデンスケールを活用し、毎月、褥瘡発生のリスクが高い方の把握を行いました。 ②入居者の方の褥瘡発生はなく、新入居者3名の方の持ち込み褥瘡があり、適切な薬剤や被覆材の使用、患部が汚染しないパットのあて方、体交や栄養補給などを協議し実践し、1名は完治、2名の方は、完治までもう少しのところまで改善することができました。
目標2	**褥瘡に関する基礎学習をしっかり行います。**	①年度初めは、新型コロナウイルス感染症のため、学習会が開催できませんでしたが、8月より感染予防策を取り「ブレーデンスケールの評価方法」について、10月は業者の方を講師に招き、「褥瘡の栄養管理」について学習会を行いました。ブレーデンスケールの評価方法を学んだことにより、各ユニットでの評価のばらつきが少なくなりました。また、栄養管理についても新しい情報を習得することができました。
目標3	**体圧分散、除圧についての学習を深めます。**	①1月に「ポジショニング」について、3月には「シーティング」についての学習会を行いました。 ポジショニングやシーティングは実技演習を行ったことで、どこに重点を置いたらよいのか具体的に知ることができて、現場で活用できています。 ②褥瘡のリスクの高い方には、理学療法士が中心となり、エアーマットや体圧分散に優れたベッドマットに変更し、臥床時のポジショニング、正しいクッションのあて方などを指導しました。

年間総括

令和2年度の褥瘡の処置した方は、入居時の持ち込みの方3名のみで、施設での発生件数はゼロ件でした。持ち込みの方も適切な処置、パットの種類の選択・交換、ベッドマット、体交、栄養補給などを多職種で協議し、実践したことで、傷が小さくなったり、完治するなど成果がでています。
褥瘡の発生はありませんでしたが、リスクの高い方は平均20名弱おられ、そのうち観察要注意の方は8名おられます。委員会では、褥瘡のリスクの高い方を把握し、ユニット会議等で多職種と処置やケア方法等を見直し、褥瘡予防に努めました。

排泄オムツ委員会

2020スローガン

住民様の残存機能に応じた、適切な排泄ケアを行い、プライドの復活を目指します。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**排泄マニュアルを作成します。**	①排泄介助・オムツ交換の動画を作成しました。また、マニュアルは動画と連動でき、読んで理解するだけでなく、見て覚えられるようなマニュアルとすることができました。 ②一覧表は作成し、オムツ発注時にいつでも確認できるように発注表に載せることができました。 ③コロナ禍において実技練習は思うように実施することはできませんでしたが、YouTubeなどの動画を視聴し、学びを深めました。
目標2	**住民様一人ひとりに合わせた排泄ケアを考えて取り組みます。**	①各ユニットの取り組みで、残存機能を生かした対応が取られていました。 ②各ユニットの会議等でパットの装着時の方法や失禁に対するアプローチなど、排泄状況を分析し、対応策を考え、実行しています。 ③ADL状態に変化があった住民様に対しては多職種との意見交換や担当者会議で話し合い、適切な対応ができるように話し合いました。
目標3	**トイレでの排泄を視野に入れ、排泄についての知識と技術を身につけます。**	①身体機能や正しい排泄姿勢、残存機能を活かすトイレ誘導などについて学習を行いました。 ②排泄リハビリについては学習会でADLに合わせた、リハビリの紹介を行いました。 ③福祉機器の導入は行えていませんが、トイレ安楽タイム、スタンディング機器のデモを行い、活用についての検討を行いました。また、オムツ類はより良い物品を選択し、褥瘡や尿漏れの軽減に繋げました。

年間総括

今年度は、排泄機能に合わせた排泄ケアに取り組む為、福祉用具の活用としてトイレ安楽タイムのデモ機の試用を行い下剤をあまり使用せず、定期的な排便を行えました。次年度に向けて正しい姿勢で排便を促し、一人でも多くの方に自然排便が行えるように支援していきます。
また、マニュアルの見直しにも力を入れて取り組み、「マニュアルのデータ化」を行い、手技については「動画」を作成しました。
マニュアル作成についても分かりやすく、読みやすいものにし、手技の動画も閲覧できるようにマニュアル内に盛り込み、スタッフそれぞれが学びやすいマニュアルを作成することができました。委員会の活動や学習内容については、より良いものにする為、次年度は委員会の活動内容を一新し学習会の推進を委員が責任をもって実施し、委員が専門知識をしっかりと習得できるような活動を実施します。

おいしい(給食)・口腔ケア委員会

2020スローガン

口からおいしく食べる。口腔内を清潔に保ち、健康に暮らす。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**安全な食事を提供します。自立支援介護を学び、「水分・食事」について考えます。**	①安全で食べやすい食事を提供する為に、カンファやユニット会議内で多職種と協議して見直しを行いました。低栄養予防にも努めました。 ②自立支援介護については、4つのケアの基本について学習会を行いました。推定エネルギー、推定水分量の計算式を学び、住民様、利用者様一人ひとりの推定エネルギー、推定水分量を算出しました。実際の水分摂取量と比較し、推定量になるように水分の提供の仕方などを見直しました。
目標2	**口腔ケアの技術を習得して、住民様の口腔内の清潔を維持し、誤嚥性肺炎の予防努めます。**	①歯科医師による口腔ケア実技研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、動画を活用して「要介護者の口腔ケア」について学習しました。 ②歯科往診が自粛される中、言語聴覚士を中心に、住民様の口腔ケアはしっかり行われ、口腔内の清潔は維持できています。
目標3	**季節に応じた行事食やイベント食を企画し、楽しい食事の提供を行います。**	①新型コロナウイルス感染症の影響で、バイキングなどのイベント食は中止しました。調理企画については、感染対策を行いながら、スタッフが調理して行いました。料理の匂いを感じてもらい、出来立てを食べてもらうなど、少しでも美味しいものを食べてもらう取り組みを行いました。 ②行事食に関しては、目先が変わった料理や、少し豪華な敬老の祝膳などを提供し、住民様、利用者様に好評でした。

年間総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で企画していたものがほとんど実践できませんでした。制約がある中でも少しでも美味しいものを提供したいという思いから、下半期は、感染対策をしっかり取りながら少しずつ調理企画も再開していきました。実際、目の前でできる料理をみて出来立てを食べることに、住民様・利用者様はかなり喜ばれ好評でした。自立支援介護について「食事・水分」をしっかり学ぶ予定でしたが、実施できませんでした。下半期にようやく学習会を行い、推定エネルギー、推定水分量の計算式を学び、一人ひとりの必要量を算出しました。水分については、現状と比較し、水分摂取量を増やすための取り組みが各ユニットで行われました。水分摂取量が増え、排便コントロールが上手くいった事例も出ています。今後も自立支援介護「食事・水分」に引き続き取り組んでいきます。また、歯科との連携を行い、口腔衛生管理強化にも取り組んでいきます。

事故防止対策委員会

2020スローガン

防げる事故を無くし、安心・安全を守ります。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	マニュアルを共有し事故が起きても迅速に対応します。	①②予定では、上半期に行う予定でしたが、コロナウィルスにより開催ができなかった事もあり、マニュアルについては読み合わせ、修正等は行う事はできませんでした。 ③学習会にて事例検討を行い対策まで検討を行い再発防止に努めました。
目標2	ヒヤリハットを共有し未然に事故を防止します。	①②③ヒヤリハットについては、前年度は2732件、今年度は5566件と各部ヒヤリハット件数が大幅に増えています。各部署、各スタッフのキズキが増えた証拠だと思われます。また、ヒヤリハットについては各部署で対策を考え、事故になってないケースも多々あります。
目標3	どんな災害時にでも対応ができるように、訓練を行います。	①②③災害（火災、水害、土砂災害等）について学習会を行いました。その中でも今年度は、災害時の避難経路等について、実際に体験ができました。体験する事により、実際に災害が起きた時に、どこに避難をした方が良いのかまた、どのような災害でも臨機応変に対応ができるように学ぶ事ができました。

年間総括

ヒヤリハット件数5566件、昨年度の約2倍の件数となっています。スタッフのキズキが増えた証拠だと思われます。
事故件数については、特養85件、ショート20件、デイ37件、計142件です。ヒヤリハット、事故件数についても昨年度を上回る件数となっています。
転倒リスクが高い方が多くなってきているのも要因の一つと思われます。事故の内訳としては、転倒が一番多く次に転落事故、剥離、服薬事故となっています。特に昨年度について、服薬事故が多かったように見られました。服薬については、服薬漏れ、薬が落ちていた等の服薬事故が多く見られた為、再度各部署で服薬マニュアルを確認し再発防止に努めました。今後もヒヤリハット（キズキ）を出して、安心、安全に事故防止に努めます。

介護力向上委員会

2020スローガン

オリンピックイヤー！宣誓！いい介護を目指し、成長することを誓います！

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	**頑張る人を応援するため、お互いが応援上手となり、チーム力を高めます。**	①4月の開催は、自己学習となりました。コロナウイルスで大変な事も多く、乗り越える事でチームの結束・協力は、強くなったのかもしれません。退職者も前年度に比べて年間18名から14名に減少しました。 ②チームケアの学習会で多面的なとらえ方を学習しました。今後のアセスメントに生かしていければと思います。 ③マスクをつけたコミュニケーションの仕方や、コロナ禍だからこその人への配慮、接遇マナーを学びました。
目標2	**みんな入浴が大好き！「安心・安全」な入浴を学び、心地よい入浴を提供します。**	①③入浴介助マニュアルを動画で作成しました。各ユニットで工夫をしながら機械浴の操作方法について『伝える』ことが学習に繋がりました。出来た動画を修正する意見もICTを利用して多くのスタッフから集めることができ、コロナで集まることが出来なくても逆に効果的な学習会を行うことが出来ました。 ②YouTube動画を利用して、『だまして入浴していませんか』など本当に心地よい入浴が提供できているか振り返りを行いました。また、各ユニットで入浴剤や飲み物の工夫など、心地よい入浴に向けて実施しました。
目標3	**認知症ケアのプロを目指し、「認知症の方の尊厳を支えるケア」を追求します。**	①②マニュアルの読み合わせ・更新は行えませんでした。ハッピーホルモンと言われるオキシトシン・ドーパミン・セロトニンの効用を、認知症のBPSD改善に対して活用できるよう学びました。コロナの感染予防でストレスの高まる中スタッフに対しても活用できる学習でした。 ③特養と在宅部門より、それぞれ1例ずつ認知症対応の事例発表の機会を持ちました。認知症のBPSDへの対応について意見を交わし、それぞれの住民様・利用者様の理解につながりました。

年間総括

今年度一番の収穫は、新型コロナウイルスの流行で思うように学習会が開催できないことで、機械浴操作の動画マニュアルを作成できたことです。
各ユニットから集まった素材動画を確認すると、現場スタッフが初めての動画撮影に試行錯誤しながら取り組んでいる様子が伝わりました。
コロナ禍で集まることは出来なくても、スタッフ同士が協力して作り上げた動画マニュアルは、多少不細工ながら、おきなの杜スタッフの力を合わせて作成した記念すべき作品になりました。
また、介護力向上委員会の分科会として、12月よりユマニチュード学習会を始めました。動画を利用しながらユマニチュードの基本理念から、見る・話す・触れる・立つの4つの柱までを6回に分けて学習しています。来年度も継続して認知症の方の理解と対応力を向上していきたいと考えます。
全ての介護力につながる接遇・おもてなしについては、次年度スターフライヤー社からの協力を得ながら、より実践的な、おきなブランドの向上につながる学習会を行いたいと思います。

ノーリフティングケア委員会

2020スローガン

銅より銀、銀より金を目指し、全員で技術を磨きあげていきます。

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	ノーリフティングケアでスタッフの腰痛を予防します。	①9月と3月に腰痛アンケートを実施しました。腰痛保有率は横ばいですが、疼痛程度は軽減傾向です。看護師より個別に聞き取りを行い、個別対応もしています。 ②③アンケートで業務負担の調査・分析を行いました。トイレ介助や入浴介助での負担が大きかったため、それらの改善を目的にスタンディングリフトや入浴リフト（1丁目）を選定しデモを行いました。スタンディングリフトは、実際に住民様にも使用し効果や課題を検証しました。
目標2	ノーリフティングケアを介護技術の基本として統一した安全な介護を目指します。	①②実技ビデオを作成し上半期はビデオ学習を行いました。視聴後のアンケートは振り返りの良い機会となりました。また、いつでも見直せるとスタッフからも好評でした。下半期からは、実技練習を再開しプレ技術チェックを行いました。個人差はありますが技術が身についている職員が増えていました。 ③技術チェック表を作成しました。プレ技術チェックで試用し評価方法や評価表の見直し、修正を行いました。
目標3	ノーリフティングケアの考えを深め、一人一人に適したケア方法を見直していきます。	①新型コロナの影響で集まってのグループワークは行えませんでしたが、アンケートで意見を収集しました。 ②事例検討は行えませんでしたが、移乗介助やポジショニングなど個別の相談が増え、住民様個々に応じた対応をユニット職員と一緒に考えることができています。 ③簡易移乗介助選択シートを活用して住民様の状態を評価し、介助方法の見直しを行いました。また、その結果によりスタンディングリフトの対象者を選定しデモを実施しました。

年間総括

新型コロナの影響で何度も委員会・学習会の予定を組みなおしながらの活動でしたが、実技ビデオの作成など新たに取り組んだものを活用しながら技術力の向上を主に活動できたと思います。プレ技術チェックを実施し、まだ個人差はありますが技術力が向上していることを実感できました。
シートやボードなどの福祉用具が充足し、今まで以上に活用する場面も増えています。今後はより身体の使い方を意識した実技練習を継続し技術チェックを行っていきます。また、新入職員への指導も重点的に行っていきます。
腰痛アンケートでは腰痛保有率が横ばいで推移しています。現状ではトイレや入浴介助など今ある福祉用具では対応できない場面や、本来リフトの対象者のボードでの移乗などまだまだ負担がかかる場面があります。今後はリフトなどの福祉機器を導入し職場環境の更なる改善が必要となります。
令和2年度は住民様の個別アセスメントや福祉機器の選定・デモを実施し、効果や課題の検証を行いました。令和3年度は導入に向けて、より具体的に進めていきたいと思います。

安全衛生委員会

2020スローガン

フレー！フレー！　イキイキ職場の応援団！

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組･成果･実績
目標1	スタッフの「こころとからだ」の健康増進を応援します。	①生活習慣病やその予備軍に該当する職員が多数いるため、生活習慣の改善に繋がる有益な情報を委員会で取り上げ学習しました。 ②ストレス解消法を伝達し、分かり易く説明、気軽に相談できる環境を創りました。 ③新型コロナ禍のため、スポーツクラブは開催できませんでしたが、自宅でも身体を動かすことができるように、機能訓練指導員の指導によるストレッチの実技を行いました。
目標2	筋力を鍛えよう！ 「腰痛にならない」対策に取組みます。	①ノーリフティングケアを実践する、又は実践しないかで、どの位身体の負担が違ってくるのかを実際に行うことで、体感でき、参加者が日々の業務に活かすことができています。 ②ストレッチの実技を行い身体を動かすことで、自身の身体の状態を把握しながら身体を動かすことの心地良さを体感しました。 ③腰痛健診希望アンケートを基に対象者を把握し、腰痛健康診断を実施しました。
目標3	職場環境の安全対策に取り組み、労働災害防止に努めます。	①安全衛生の基本を学び実践することで、労災ゼロで過ごすことができました。 ②外部講師による労災についての講義で、日頃から安全活動の大切さを学びました。 ③日々、情報は違っているので、気を抜かずに継続して事故がないよう環境整備を行いました。

年間総括

安全衛生委員会は、その他の委員会が住民様主体であるのに対し、職員主体で職員の心身を守るための委員会なので、全職員が心も身体も安全に過ごせるような目標を掲げています。2020年は新型コロナ禍の中で、誰もが我慢を強いられた1年間だったので、ストレスやストレス解消法に関する情報を委員会内で提供し、職員の精神状態が安定し、ストレス解消できるように心掛けました。
また、KY活動や腰痛予防は、安全衛生で特に注目されている項目なので、2021年度も力を入れて取り組みたいと思います。新しことを取り入れながら継続すべきものはよりクオリティを上げて継続し、安心安全な職場環境創りに取り組みたいと思います。

行事・広報・もったいない環境整備委員会

2020スローガン

いつでも。どこでも。どんなときも。″参加することに意義がある″

令和2年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	住民様・利用者様・ご家族の夢を応援します。	①年間を通じて、施設全体の行事は軒並み中止になってしまいました。その中でも、感染症の予防対策をしっかりと講じ、事業所単位で納涼祭や敬老式典、節分等の季節感ある行事を開催しました。 ②オリンピックは延期になりましたが、運動会や頭と身体を同時に使う企画を実行しました。 ③密を避けるため、行事の進行に工夫を凝らした企画の実行ができました。この取り組み方は、次年度に活きてくると思います。
目標2	様々なお役立ち情報発信して職員・利用者様の生活を応援します。	①各事業所から、SNS掲載記事の情報提供が続々と寄せられました。文字通り「ライター」としてスタッフが活躍してくれました。現場からの新鮮な情報で、充実した内容になったと思います。 ②行事に関することはもちろんですが、医療・福祉従事者へ感謝を伝える『 Everyday Ovation 』や、貫小学校新一年生への手作りマスク贈呈、顔認識型検温器の導入など、コロナ禍ならではの情報を多く発信したことは今年度の大きな特徴でした。
目標3	SDGs（持続可能な開発目標）の理念に則り、『出来るコト』から取り組みを開始します。	①残念ながらSDGsに関する勉強会は出来ませんでした。一方で、清掃と節電に関する勉強会を3回行いました。次年度も内容をさらに充実させて開催したいと思います。 ②感染症対策としての換気が影響して発生したカビの発生状況のチェックへの取り組みや、勉強会で得た情報を持ち帰って展開するなど、委員会メンバーひとりひとりが責任感をもった活動を行えました。

年間総括

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全体行事の中止や特養住民様への面会の制限を与儀なくされるなか、行事・広報の大切さと使命を改めて感じた一年でした。それでも、行事企画スタッフは住民様・利用者様に笑顔をお届けするために知恵を出しました。密が予想される初詣は、『リモート』で行い、中止になってしまった外出企画は『バーチャル』で行う等、「コロナだから・・・」と諦めずに企画を実行しました。
広報については、定期的に発行する『おきなの杜だより』や公式ブログ『おきな日和』だけでなく、日頃の何気ない様子や、行事を楽しまれている姿を写真に撮り、絵葉書にしてご家族へお送りする等の取り組みを行いました。なかなか会うことが出来ない状況が続く中、大変好評だったとのことです。
もったいない・環境整備の面では、感染症対策としてとても重要な清掃・整理整頓をより効果的なものにするために、勉強会を実施しました。普段何気なく使っている清掃道具や洗剤も、使い方を誤ると効果が薄れてしまうことを改めて認識し、日頃の清掃に取り組むことができたと思います。
電気使用量が一番多い冬場に、節電の勉強会を実施しました。次年度は、電力会社や機器メーカーからも情報収集し、伝達したいと思います。